

『眠れなくなる宇宙のはなし』

佐藤 勝彦 / 作 長崎 訓子 / 絵

講談社 443 冊



宇宙はどんなすがたをしているのだろう。天は円盤のような形をしている？大地はゾウの背中にのっている？むかしのひとはあれこれと想像しました。そんな中、コペルニクスやガリレオが宇宙へのとびらを開いていきます。今夜あなたも宇宙のことを考えてみませんか。

『こんばんはあおこさん』

かわかみ たかこ / 作

アリス館 Eカ



よるになって、おかあさんが へやのあかりをけしました。でも、あおこさんは なかなか ねようとはしません。「こんばんは あおこさん」と、こえをかけてくれた こうもりさんの あとをおいかけて、あおこさんは よるのせかいへ でかけていきました。



よる そら 夜の空って



なんだかふしぎ

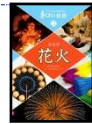


『花火』

和の技術を知る会 / 著 文溪堂



502 冊



夏の夜空に浮かぶ大きな花火。どうやって作られているか知っていますか？この本を読めば、打ち上げ花火からおもちや花火まで、いろいろな花火のしくみや楽しみ方を知ることができます。

『お月さまにとんでいったデブール』

茂市 久美子 / 作 こみね ゆら / 絵

大日本図書 913 冊



ガに生まれたデブールは じぶんのすがたを見たことがありません。デブールがちかづくと だれもがいやな顔をします。しょんぼりと かなしむデブールの たったひとりの ともだちになったのは ひとりぼっちのつきみそうでした。

『そらとぶでんしゃ』

アン マサコ / 作 講談社

Eア E



ぎゅうにゆうパックを はさみでじょきじょき。おとこのこが だいすきなでんしゃをつくっているよ。あとはいろをぬるだけ！そんなとき、ひとりでおるすばんしていると、ぎゅーっとてが ひっぱられた。そうして、クレヨンたちとのそらとぶぼうけんが はじまったんだ。

『花火師リーラと火の魔王』

フィリップ・プルマン / 作

なががわ ちひろ / 訳 ポプラ社 933 冊



「一人前の花火師になって、おとうさんを負かしてやる。」リーラは家をとびだして火の魔王に会いにメラピ山にむかっていた。しかし、火の魔王に会うのに魔法の水が必要なことを知りません。それを知った友人のチュラクと ソウのハムレットはリーラを追いかけていきます。

『おつきさまこんばんは』

林 明子 / さく 福音館書店



よるになったよ。おそらは もうまっくら。やねのうえには ねこのかげ。ひょっこり おかおを だしたのは、まんまる きいろい おつきさま。

『お月さんのシャーベット』

ペク・ヒナ / 作 長谷川 義史 / 訳

ブロンズ新社 Eハ



あるなつのばん。あつくて あつくて ねるどころではありません。えらいこっちゃ。お月さんとけてきてしまいました。しっかりものの はんちょうのおばあちゃんは お月さんのしずくを たらいうけ、シャーベットをつくりました。